総務・産業常任委員会行政視察

・陸上養殖　・百年の森構想
・栄養塩類の能動的運転管理

5月30日から6月3日まで委員全員参加し行政視察に行ってきました。

赤潮等漁業環境の悪化対策として近年活発化している陸上養殖の可能性、様似町の産業振興につなげることが出来ないか、また、豊かな海づくりのための栄養塩類の能動的管理、林業の新たなる可能性について見識を深める視察でした。

5月31日には鳥取県琴浦町赤崎漁港の屋内で循環ろ過養殖を採用しふ化棟と育成棟2棟と、屋外で気泡ポンプによる循環方式養殖を展開している日本最大級のトラウトサーモンの養殖施設を視察しました。

循環ろ過方式を採用することで薬品を使用せず良質の肉質の製品に仕上げることが出来るとのことで、事業費は屋内施設が12～13億円、屋外施設が4億円でした。

課題として、コストが高く難しいと説明がありました。



手前がふ化棟、奥が養殖棟

次に岩美町網代新港で行われているマサバの養殖場を視察しました。ここでは「お嬢サバ」というブランドで、主にJR西日本に販売しています。この施設の特徴は、地下20mからくみ上げた地下海水を使用することで寄生虫の心配が無いことと、女性でも誰でも出来る陸上養殖を目指していて、奥さんがセンター長、娘さんも施設係として働いています。

課題として、1分間に300リットルくみ上げるポンプアップで、太陽光発電も利用していますが、電気代がかさむとのことでした。

6月1日は、岡山県西粟倉村の百年の森構想の取り組みについて座学の研修でした。

村は大規模合併を村民投票によって否決し、暮らす人が全員豊かになり美しい山々との関係性を築き人生を楽しめる環境作りを選択しました。

「百年の森構想」の最大のポイントは、地域資源に付加価値を付けて経済を循環させ、「共有の森ファンド」を立ち上げ林業のサプライチェーンを構築し、行政、森林組合、村民、移住者が一つになって村を未来へ受け継ぐ体制を実現しています。



議場での座学
普段は村民に開放しています。

6月2日は、岡山市でヒレナマズを養殖している施設を視察しました。この施設は閉鎖循環型陸上養殖設備と種苗生産、稚魚、成魚販売を手掛けています。ただ、ヒレナマズの適水温が27度前後と高く、寒冷地の様似では課題も多いのですが、設備は比較的安価で小規模でも可能なので、様似町に適した魚種、施設、制度を早急に調査する必要があります。

最後に、香川県さぬき市鴨部川浄化センターを視察し、オキシデーションディッチ法による浄化方式の概要と施設の説明を受けました。

濃度基準を順守した中での窒素濃度を高める試みですが、即効性のある効果はまだ出ていないとのことでした。

様似町の施設ではこの対応はできませんが、赤潮が発生したことや資源の減少は著しく、今後栄養塩との関係を注視していく必要があります。様似町の担当職員も同行したこの行政視察を形のあるものにしなければなりません。

編集後記

コロナ禍から3年が過ぎ、ようやく旅行やイベントの話題を目にするようになりましたが、道内においても一時期から比べると感染者数は減ってきましたがまだまだ完全復活には程遠い感がし、ウイズコロナで対応せざるを得ないかと思います。

2年続けて中止になった第50回アポイの火まつりも復活開催されることになり、これを契機に様似町の景気も復活してくれるといいのですが。他町が羨む「アポイクーポン」の効果にも期待したいものです。

（佐々木）

議会広報常任委員会
委員長　坂本好則
副委員長　佐々木敏
委員　八木田和浩
委員　水野洋一
委員　橋爪伸恵

編集　様似町議会議会広報常任委員会／発行責任者　議長　工藤仁
〒058-8501　北海道様似郡様似町大通1丁目21番地
TEL 0146（36）2141　FAX 0146（36）2662